

令和8年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年10月22日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○11月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			10月の発生量 （平年比）	10月からの 増減	11月の発生量 （平年比）	
さとうきび	①	メイチュウ類 （カンシャシクイハマキ・イネヨトウ） （夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（かんきつ）	①	そうか病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
（かんきつ）	①	かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
（かんきつ）	②	黒点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	①	チャノキイロアザミウマ	並	↘	やや少	平年の発生量の推移（↘）
	②	マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	やや少	例年の発生量の推移（↘）
	③	ハダニ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
ピーマン（施設）	①	斑点細菌病	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②	ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③	タバココナジラミ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	④	ハダニ類	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○11月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			10月の発生量 (平年比)	10月からの 増減	11月の発生量 (平年比)	
小 ギ ク （ 年 末 出 荷 用 ）	①	黒斑・褐斑病	多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗） -----
	②	アザミウマ類	多	↗	多	例年の発生量の推移（↗） -----
	③	アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘） -----
	④	チョウ目幼虫	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→） -----
	⑤	カスミカメ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗） -----
	⑥	ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→） -----

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予察の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
カン シ ヨ	トリバ類	多くのほ場で発生が見られた。幼虫が葉を食害する。発生初期の防除が有効であることから、被害葉が出はじめたら早期防除に努める。また、収穫時に刈り取った茎や屑イモ等の収穫残さは発生源となるため、ほ場外へ持ち出す。
さ と う き び	黒穂病	一部新植夏植えほ場で確認された。発病株からの胞子飛散を防ぐためにビニール等で袋かけして抜き取り、処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。
マン ゴ ー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。 カイガラムシ類は一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも密度低減に有効である。 多発すると防除が困難になるため早期発見・防除に努める。

○その他注意すべき病虫害つづき（沖縄群島）

ピーマン（施設）	チャノホコリダニ	一部施設で発生がみられた。 25℃での卵から成虫までの発育期間は8～11日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。また、薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、葉散は丁寧に行う。
	チョウ目幼虫	一部施設でハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生がみられた。 施設内を見回り早期発見に努め、新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。
トマト（施設）	トマト黄化葉巻病	一部施設で黄化葉巻病の感染株を確認した。 本病は、タバココナジラミによって媒介されるウイルス病である。感染した株は感染源となるため早急に抜き取り、ビニール袋に入れるなどして密閉処分する。また、タバココナジラミの早期発見・防除に努める。
	タバココナジラミ	一部施設で発生がみられた。 本種はトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）およびトマト退緑ウイルス（ToCV）を媒介する。また、多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。多くの雑草が本種の発生源となりうるので、施設内外の雑草を除去する。本種は薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。また、天敵を利用して施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

令和8年度 宮古群島 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年10月22日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○11月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 （平年比）	10月からの 増減	11月の発生量 （平年比）	
さとうきび	① メイチュウ類 （カンシャシクイハマキ・イネヨトウ） （夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗） -----
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘） -----
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘） -----
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→） -----
かぼちゃ	① 斑点・褐斑細菌病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗） -----
	② アブラムシ類	やや多	↘	多	平年の発生量の推移（↘） -----
	③ ハモグリバエ類	やや少	↘	並	平年の発生量の推移（↘） -----

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	黒穂病	一部新植夏植えほ場で確認された。発病株からの孢子飛散を防ぐためにビニール等で袋かけして抜き取り、処分する。新植への感染を防ぐために発病ほ場やその隣接地からの採苗は控える。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でコシロモンドクガ、ナカジロフサヤガ、シャクガ類の発生が見られた。新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。

令和8年度 八重山群島 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和8年10月22日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○11月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		10月の発生量 （平年比）	10月からの 増減	11月の発生量 （平年比）	
さとうきび	① メイチュウ類 （カンシャシクイハマキ・イネヨトウ） （夏植え）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↘	やや少	平年の発生量の推移（↘）
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ハダニ類	多	↘	多	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予察の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でナカジロフサヤガ、シャクガ類の発生が見られた。 新葉を食害するので、施設内を見回り、不要な新梢を除去するとともに、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	複数の施設でコナカイガラムシ類、マルカイガラムシ類の発生が見られた。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。またハブラシ等で成幼虫をこすり落とすことも、密度低減に有効である。多発すると防除が困難になるため、早期発見・防除に努める。

○その他注意すべき病害虫つづき（八重山群島）

オ ク ラ	クロテンコナカイガラムシ	複数のほ場で発生が確認された。発生を確認したら速やかに寄生部位を除去し、ほ場外に持ち出し処分する。寄主植物が多いので、雑草防除に努めるとともに、周辺の作物や樹木等での発生に留意する。
	ハダニ類	複数のほ場で発生が確認された。薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。